

「きょうと生物多様性パートナーシップ協定」に基づく チマキザサ保護活動の実施について

12月12日、「きょうと生物多様性パートナーシップ協定」に基づき、京都市左京区花脊別所町においてチマキザサを新たな保護区に移植する活動を京都市、チマキザサ再生委員会並びに関係者のみなさまと共に実施しました。



(ササ苗の掘り起こし)



(保護区へ移植)



(啓発看板)

□活動の概要

京都市左京区花脊別所町のかつてチマキザサが自生していた場所において、新たに防鹿柵を設置するとともに、地域で生育しているチマキザサを柵内へ移植、啓発看板の設置を行い、チマキザサ再生面積を拡大します。

□参加者 約30名（団体名順不同）

京都市、チマキザサ再生委員会、京都府、きょうと生物多様性センター
京都府立植物園、山仕事サークル杉良太郎、公益財団法人京都市森林文化協会
京都府立大学森林ボランティアサークル森なかま、京北・左京山間部農林業振興センター
株式会社京都環境保全公社

□チマキザサ再生委員会について

チマキザサ復活に向けた総合的な取組を推進するため、平成25年6月、花脊・別所・明倫の各学区自治振興会の代表者、京都大学の研究者有志、元京都市未来まちづくり100人委員会「山紫水明の京都チーム」、祇園祭山鉦連合会及び京都市（左京区役所、林業振興課、京北・左京山間部農林業振興センター、環境保全創造課）により「チマキザサ再生委員会」（事務局：左京区役所）を設立

2024年10月、チマキザサ保護区が環境省の「自然共生サイト」に認定

□「きょうと生物多様性パートナーシップ協定」について

2024年5月に京都市、京都府、生物多様性センター、当社の4者で締結しました。生物多様性保全に取り組みたい企業と保全団体とのマッチングを図り、協定を結ぶことで、効果的かつ持続可能な生物多様性保全の取組を展開する制度です。

当社では、焼却炉で発電した電力の売電収益の一部を活用して保全団体の活動を資金面や資材、人材、技術等の提供により支援していきます。